



令和7年7月10日発行

校長 鈴木 和彦

横尾中学校 学校だより

校訓「自立」<学校スローガン:「Challenge」~I can do it. ~>

【土曜日授業】

保護者参加:38名

7月5日(土)に土曜日授業を行いました。

朝から「命のつながり」という題で私が講話をしました。当初の計画では、体育館で全校生徒を集めて話をする予定でしたが、熱中症予防のためにリモートでした。

続いて1校時目は、長崎県メディア安全指導員の2名を招いてメディアリテラシーについて生徒に考えてもらいました。

これまでのメディア活用について振り返り、生徒一人一人が「学校メディア宣言」を作成して各家庭で実践していくことを最終ゴールとしています。「学校メディア宣言」とは生徒自身がメディア使用の約束事を立て宣言するものです。

今後、生徒一人一人が立てた「学校メディア宣言」を各家庭の協力を得て夏休み期間中に実践し、夏休み終了後に実践できたかどうか振り返りをします。ご家庭での協力をお願いします。「学校メディア宣言」の達成状況は学校保健委員会だよりでお知らせする予定です。

2校時目は各学年道徳の授業を行いました。1年生は「命ってなんだろう」という教材で学習しました。授業を終えてからの生徒感想を一部紹介します。

○これからの命をどう生きるか。

- ・せっかくもらった命を大切に生きる。勉強や運動をしっかりとやる
- ・みんなと出会えたのも奇跡で、当たり前ではないから、周りの人に対して、マイナスな考えではなく、もっとポジティブに受け取って生きたい。
- ・自分が生きているのが奇跡だということ、父母の恩を考えて、自分の命を大切に思いっきり楽しんで生きる。

○周りの人の命とどう生きるか。

- ・「キモイ」「うざい」とか言ったり、人の失敗を笑ったりしない。
- ・どんなに自分が嫌だったとしても、自分と相手の価値観の違いを理解したい。そのうえで、どうしたら相手を傷つけないか、どうしたら仲良く過ごせるのか、よく考えて後悔しないようにしたい。相手も頑張っているのだから、その頑張りを応援したい。
- ・いじめをしない。
- ・ふざけて言っているつもりが、相手にとってはすごく傷ついているかもしれないから、一言一言に責任をもって発言する。

2年生の道徳は、1組と2組ではちがう教材を使って授業をしました。
1組は「母のバトンタッチ」という資料と「象の背中」の動画を見ました。
「母のバトンタッチ」は以下の内容です。

余命3か月の母親は12月までしか生きられない。どうしても娘の卒業式まで生きたいという希望を捨てずに、その間も病院から外出許可をもらって娘の弁当づくりをしていた。本当ならば起き上がることもできないほどの病状なのに・・・そして娘の卒業式を見送って1か月後に亡くなった。

生徒の感想です。

・もし、自分がそんな日があったら（家族を失ってしまったら）と考えると悲しく、さみしくなりました。今生きている一日一日を大事にして過ごしていきたい。

・普段自分ができていること、家族と一緒にいることが当たり前ではない。自分の人生に希望をもって生きることが大切だとわかった。これから、たくさんの人に感謝しながら一日一日を大事に生きようと思った。

2組はジレンマ教材を使って授業しました。その教材は以下の内容です。

走っている電車のブレーキが壊れた。このままハンドルを切らなければ、その先にいる五人の命が奪われる。ハンドルを切ると、その先にいる一人の命が奪われる。あなたが運転手だったらどうするか？

生徒の感想です。

・今日の学習で、人が死ぬのは少ない方がいいというだけではないことがわかりました。

・私は今日、ハンドルを切るか切らないかの2つでたくさん悩んでいたけど、クラクションを鳴らせば状況が何か変わったかもしれないので、あきらめずにいろいろな方法を考えることも大切だと思いました。

3年生の道徳は「臓器提供」という教材を使って学習しました。

以下の4つの立場で生徒たちはそれぞれの意見を発表していました。

○脳死の状態で自分自身は臓器提供するのかしないのか。

○自分の家族は臓器提供することを賛成するのか反対するのか。

○臓器提供される本人は受け入れるのかどうか。

○臓器提供される本人の家族はどのような気持ちなのか。

そこで発表された意見を紹介します。

・ぼくは臓器提供したいと思いました。僕一人で何人も救うことができるなら力になりたいです。

・臓器提供する家族は、自分の子どもの臓器を他の人に提供することを嫌がると思う。子どもには最後まで生きてほしい。

・子どもの臓器提供をすることによって、提供された人の中で生き続けることができるのでいいと思う。

・臓器提供される本人の家族は、自分の子どもが助かるなら提供を受けたいと思う。

・臓器提供される本人の家族も複雑な気持ちだと思う。